

2022年5月6日

内閣総理大臣 岸田文雄様

北京 JAC

(世界女性会議ロビイングネットワーク)

東京都文京区本郷 2-27-2 東眞ビル 3F

代表 船橋邦子

## 一刻も早い停戦に向けた日本政府への要望

北京 JAC は、1995 年国連主催「第 4 回世界女性会議」で採択された「北京行動綱領」に明記された「暴力や差別のない平和で公正な社会」の実現をめざして、27 年間、全国各地で「平和なくして平等なく、平等なくして平和なし」(市川房枝)を念頭に性差別撤廃の活動を続けてきました。

この間、世界の女性たちの運動の広がりにより、性暴力を含めた女性への暴力、女性の貧困など性差別の実態は可視化され、国際的には女性の人権確立は前進したといえます。しかし、2 月前に始まったロシアのウクライナへの侵略による戦争は、「平等・開発・平和」を掲げたジェンダー平等の動きに逆行するものです。

「武力で平和は創れない」という明快な真理に基づき、第 2 次世界大戦を経験した世界各国は、国際的平和と安全の維持のために国連憲章を定めました。敗戦国であり、唯一の被爆国である日本は、恒久平和を希求する戦争放棄という理想を掲げてスタートいたしました。しかしながら、ベトナム戦争、イラク・イラン戦争に続く湾岸戦争、20 年以上に及ぶアメリカとアフガニスタンなどで戦争は繰り返されてきました。その結果、「戦争は女の顔をしていない」と言われるように、男性たちが決めた戦争で女性たちの多くが犠牲を強いられてきたのです。

ウクライナでは、戦争が始まって 2 か月以上が経過しました。欧米の軍事支援によるロシアとの対立の激化で戦争が長引けば長引くほど、罪のない多くの市民の命が奪われます。

持続可能な社会をめざす SDGs も、ジェンダー平等も、平和なくしては達成できません。「民主主義」「平和主義」「国際主義」という基本的理念を掲げる「平和憲法」をもつ国の代表として、またアジアのリーダーとして、岸田首相が主導精神を発揮して、一刻も早い停戦に向けて尽力されることを強く要望します。